曽我部多美校長

亀山里美教諭

金融教育の現場レポート

東京都東村山市立回田（めぐりた）小学校

曽我部多美校長
亀山里美教諭

保険という題材を通して、自分なりの価値観を形成。

よりよく考え、判断し、行動する子の育成

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける子どもの姿をレポートします。今回は、東京都東村山市立回田小学校、6年生の授業をのぞきました。同校では早くから金融教育に熱心に取り組み、学年に合わせた計画的なカリキュラムを組んでいます。

「これがあれば安心」な保険を企画

「生活の中の思わぬ事故や不注意で、ヒヤリとしたことはありませんか？」先生の問いかけに、子どもたちの手が元気よく挙がります。「階段で転んだ」「車のドアに指をはさんだ」。ここは東村山市立回田小学校6年2組の教室です。この日は6年生になって2時間めの金融教育の授業。保険について、子どもたち自らが商品企画を行います。

すでに6年生になって、貯蓄と保険についての授業を受けています。指導するのは担任の亀山里美先生。校内の研究主任でもあります。

小学生に保険とは難しいのではないかと思われるかもしれませんが、かつて5年生全員にしたアンケート調査では、保険を知っていると答えた児童は7割以上いました。テレビCMなどで目にする機会も多く、またサッカーでけがをしたときに保険を使った経験があったり、自らの学資保険などを知っていたりする子どももいます。

自らのヒヤリ体験を語った後、次に「こんな保険があると安心」という考えで企画をします。ワークシートに①保険の名前②どんなときに使えるか③どんな人が入ると安心か④どんな補償をしてくれるか⑤補償の条件等を書き出します。まずは自分で考え、先生のところにもっていくと、「いいねえ、欲しいねえこれ」「それは経験に基づいてるよね」先生から声がかかります。「自分の生活で、こういうのあるとありがたいなって考えるといいですよ」と亀山先生。

自分で保険を考えたあとは、4、5人のグループになり、子どもたちは互いの企画を見せ合い、話し合って、いちばんお勧めのものひとつに絞ります。「似た保険があったら合わせてもっといいものにしてもいいですよ。話し合いの中で新しい保険が生まれたらそれもいいです」。「わからない勉強を教えてくれる」「忘れ物や無くし物をしたとき、GPSやドローンで探してくれる」といった、実際に子どもたちが日常で困っていることや、「恋人がいない人や恋人と別れたとき、

SNSで新しい恋人を作ったり仲直りをさせたりしてくれる『れん愛保険』」などユニークなものも出てきました。すでに授業を終えた隣のクラスでは、「雨天などで旅行の計画が予定通りにいかなかったときに支払われる『お天気保険』」や、「留学をしたり大きな買い物をしたりするなど、何か自分の夢をかなえるときに使える『夢をかなえる保険』」なども出ました。「いいねいいね」「名前はどうしよう」「保険料は？　無料はないよ。1カ月100円？」子どもたちの議論は白熱します。

考え出した保険をホワイトボードに書き出し、グループごとに発表します。発表を聞いている子どもたちは、ワークシートに、自分ならその保険に入るか入らないか、その理由を書きます。「入らない・恋人くらい自分で見つけたい」。チャイムが鳴り、次の授業に持ち越されましたが、今後振り返りを行い、保険全体のことについて感想をまとめることになります。

保険のメリット・デメリットを理解し、自分の価値観をもつ

前回の授業では保険の仕組みを学びました。身近な自転車保険の例を挙げ、自分なら保険に入るかどうかを子どもたちに考えさせました。自転車事故は3分40秒に1回の頻度で起きていることや、子どもが加害者となった事故で高額な賠償金を支払ったケースがあることを知ったうえで、自分だったらどうするか、その理由を発表します。「(そんな高額のお金を支払うことになったら)こわいからすぐに入りたい」という子もいれば、「自分は絶対にそんな事故は起こさないから、年に5千円も保険料がかかるなら貯金したほうがいい」という子どももいました。どちらも正しく、正解がない。だから構えずに意見も言いやすいし、それぞれの価値観をもって考えられるところが金融教育の良さだと亀山先生は言います。

こうして保険がどういうものかを具体的に知り考えたうえで、さらに主体的で対話的な授業に発展させたいと、保険の企画をさせ、話し合いながら完成させるという方法を試みました。「思った以上に発想が面白い。けっこう身近にあることで子どもたちが保険を考えられるのだということは驚きでした」と亀山先生。

授業を観ていた曽我部多美校長は、「保険を、夢をかなえてくれる道具と勘違いしている子どもも多くいますね」としながらも「『安心保険でいいじゃん』と言った子に対して、『そんな具体的じゃないのはダメだ』と言った子がいました。保険は、具体的な事故等に対応したものであり、単に安心だけでは保険にならないことを理解できる子もいるんだなあと思いました。自分たちのオリジナルの保険を考えたという体験が、実際に自分が保険を考えるような年代になったと

きに、この保険はどういう仕組みになっているんだろうとか、どんな補償があるのだろうと考えることができるのではないか」と言います。

曽我部校長が保険を金融教育に組み込むことにしたきっかけは、ゼロ金利。「それまで『備え』としては貯蓄で授業を展開していましたが、これからの時代を生きていくには、貯蓄と保険の両方を理解しておくことの必要性を感じたからです」。

小学校からの金融教育の必要性

回田小学校では、平成22年度から金融教育に熱心に取り組んできました。曽我部校長や亀山先生を中心とした研究推進委員会が、各学年の課題を持ち寄り、学年に合わせたカリキュラムを作り上げます。内容に応じて生活科、道徳、社会科、総合的な学習の時間、家庭科の時間を使って、金銭についての知識を深め、自分なりの価値観・意思決定の基礎が学べるようにします。

小学校からの金融教育の必要性を、曽我部校長は切実に感じています。「選挙権年齢が18歳以上になり、成年年齢も下がるかもしれません。そうなると、子どもたちは早い時期にいろんな被害にさらされます。成年と認められれば一人で契約もできます。金融教育を高校で始めるのは少し遅いと思います。社会のいろいろなことを小学生の頃から経験・理解させ、実際の自分の生活と比較してみる。そういう授業を、たくさんしていく必要があります」。

授業ではただ知識を注入するのではなく、情報を与えて必ず考えさせる工夫をしています。「よりよく考え、判断し、行動する子どもを育てる」のが研究の主題、そして「自分なりの理由や根拠をもち、状況に応じた判断ができる」ことを目標に掲げます。正解のない選択の中で、必ず自分ならどうするか、そしてその理由を語れるようにしていきます。

確実に子どもたちが変わる

金融教育はすぐに効果が見えるわけではありませんが、「最近は、お金や物の貸し借りなどのトラブルが、まったくといっていいほどなくなりました」と曽我部校長も亀山先生も口をそろえます。金融教育を始めた頃、5年生に行ったアンケートでは、家庭で生活するためのお金をどのように得ているのかを知っている児童はなんと49％に過ぎなかったといいます。家庭での関わりも重要かと思われますが「家庭に協力を求めるというよりも、子どもたち自身を変え、教育を受けた子どもが家に帰り、家計を見直す視点をもち、発言をするというのも狙いです」と両先生は話します。

「金融教育を通して、子どもは確実に変わりますね。お金は身近な題材であるし、

「金融教育」の授業を受けた
子どもたちの感想

「保険はいろいろなことを**補償**してくれ、**安心**して生活できるので入ったほうがいい」

「保険はお金がかかるけど、その分**何かあったら返ってくる**ので、いいと思った」

「保険はみんなで**助け合って**成り立っているんだと思いました」

「私も大人になったら**もしものために**、お金がかかってもいいから保険に入りたい」

「自分が大人になったら本当に**入るべきか**を考えて入りたい」

「保険にはお金が必要なので、**難しいな**と思いました」

価値尺度は同じですから、子どもたちも意欲を高めます」と亀山先生。「実際の生活に近い教育ができるんですよ」と曽我部校長もうなずきます。先生たちが金融教育のカリキュラムを練り、実践結果をもとに次の課題を考える中で、常に大事にしているのが講師の先生から教えられたこの一言。「金融教育は、HOWTOではない。お金の使い方を教えるのではなく、価値観を形成することが大切なのだ」。

「実践事例がなかなかなく、教科書もないので、自分たちで単元を開発していかなくてはなりません。いろいろ話し合って苦しみますが、最終的にはそれが私たちの力にもなりますし、やっていて楽しいです」と亀山先生。しっかりとした価値観をもち、自分で判断できる社会人を育てるための礎が、先生方の努力によって幼い頃から一つ一つ築かれています。

回田小学校の金融教育

1年前期〈生活科〉
「いえでのしごと」
生活を見直し、自分ができることに気づき、行動しようとする。

2年前期〈生活科〉
「みんなで考えよう! もったいない生かつ!」
「もったいない」について考え、よりよい生活を作り出そうとする。

2年後期〈道徳〉
「物を大切に」
物の使い道を考え、物を大切に、上手に使おうとする。

3年前期〈総合的な学習の時間〉
「もったいない」から始めよう
スーパーの野菜と地場野菜を比べ、自分の考えに明確な根拠をもって選ぶ。

3年前期〈社会科〉
「調べよう 物を作る仕事」
農家の人の工夫や苦労、願いを知り、食べ物を大切にしようとする。

3年後期〈総合的な学習の時間〉
「もったいない」から考えよう
使われていない身の回りの文房具をお金に換算し、価値に気づき、生活に生かす方法を考える。

4年前期〈社会科〉
「安全なくらし」「住みよいくらし」
消防や警察など、身近な仕事について学習し、やりがいや工夫に気づく。

4年前期〈総合的な学習の時間〉
「調べよう わくわくワーク」
身近にあるさまざまな職業について調べることで、働くことの苦労や働く意義に気づき、望ましい職業観を養う。

4年後期〈総合的な学習の時間〉
「やさしいお金の使い方を知ろう」
身近にあるさまざまな環境を考えた商品について調べることで、自分の生活が環境に与える影響に気づく。

5年〈家庭科・総合的な学習の時間〉
「What's money?」1
金銭の価値・金銭の仕組み、金銭の使い方など、金銭に関する基礎を学ぶことで、今後の意思決定の礎を作る。

6年〈総合的な学習の時間〉
「What's money?」2
買い物計画・まさかの時のために・お金の貯め方・租税教育・中学校に入学する費用・契約について。